

令和3・4年度 長崎県教育委員会指定

令和3・4年度 諫早市教育委員会指定

～ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業～

研究紀要

【研究主題】

「ふるさと小長井」の魅力を創出するキャリア教育の実践

～地域と協働しながら、ふるさとを盛り上げようとする実践力を育てる～



令和4年10月14日（金）

諫早市立小長井中学校

はじめに

本日は、諫早市立小長井中学校の研究発表会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

本校は、令和3年度から2年間、長崎県教育委員会および諫早市教育委員会の研究指定を受け、「地域と協働しながら、ふるさとを盛り上げようとする実践力の育成」に取り組んでまいりました。コロナ禍で、取組や活動に制限がある中、試行錯誤しながら、「今できることを、楽しみながら取り組もう」を合言葉に、チーム小長井中で研究を進めてまいりました。

小長井地域は、昭和35年以降人口減少が続いており、令和4年の人口総数は4,648人、昭和35年の8,390人と比較して、3,742人(44.6%)減少しております。特に、15歳未満の年少人口は、昭和35年の3,491人から令和4年は394人となり、3,097人(88.7%)の大幅な減少となっております。更に15歳から64歳までの生産年齢人口の減少、65歳以上の老年人口の増加と、急速に高齢化が進行しております。

令和3年9月に「諫早市過疎地域持続的発展計画」が策定され、小長井地区の過疎対策として、地域に人が集い、生き生きと躍動するまちづくりを目指すことを目的とした様々な取組がなされております。

本研究は、「地域ぐるみでふるさとの魅力発見・課題解決・情報発信を目指した探究的な学習に、自立的・継続的に取り組み、ふるさとを支える実践力を育むこと」を目的としております。この目的が、諫早市や小長井町の取組の目的と一致しており、今回、このようなふるさとに貢献できる人材育成のための学びの機会を与えていただいたことに感謝しております。

また、西九州新幹線の開業や諫早市地域おこし協力隊の活動とも時期が重なり、各方面からイベントやPR活動への中学生の参加依頼をいただいたことにより、取組や人とのつながりが広がったことは一つの大きな成果だと考えております。

まだまだ道半ばであり、十分な形としての研究にはなっておりませんが、取組を振り返り発表することで、多くの方々から御助言いただきながら、次年度に向けての方向性の確認と更なる研究の深みを目指したいと考えております。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり多大な御尽力と御指導をいただきました長崎県教育委員会、諫早市教育委員会の皆様、そして本校を支えてくださった小長井の地域の皆様や保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年10月14日

諫早市立小長井中学校
校長 小 峰 裕 治

目 次

I 研究概要

1 小長井町の現状	1
2 生徒の実態	1
3 研究主題設定の理由	1
4 研究構想図	2
5 研究組織	3
6 令和3年度の実践	4

II 令和4年度の実践

1 1年生の実践	5～8
2 2年生の実践	9～11
3 3年生の実践	12～15

III アンケートの集計結果と分析

IV 研究の成果と課題



フルーツバス停をモチーフにしたキャラクター（生徒作品）

I 研究概要

1 小長井町の現状

小長井町は有明海に面した風光明媚な町で、東側を佐賀県に接し、海をはさんで向かい側に普賢岳や熊本県を目にすることができる。

特産物は、カキやアサリなどの魚介類をはじめ、田原のいもんこ（里芋）や赤米、ミカンなどの農産物である。また、インスタ映えスポットとして有名なフルーツバス停には、カメラを手にした人たちが多く訪れている。

このような明るい話題も多い一方で、人口減少と少子高齢化が急速に進み、令和3年4月に施行された「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」の規定に基づき、小長井町は過疎地域の指定を受けた。そのことにより、小長井地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上が図られている。

2 生徒の実態

本校は3つの小学校から生徒が集まり、穏やかな学校生活を送っている。全体的に素直で大らかという良さがあるが、積極性に欠け、学びに対して受身的なところが見受けられる。伝統的に、地域の方々へのインタビューや町内にある福祉施設との交流、「こながいまつり」への協力などを通して、地域との交流があった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大後は実施できていない活動が多い。

令和3年5月の生徒アンケートでは、小長井のことを好きな生徒は全校の90%、小長井を誇りに思う生徒は80%であり、小長井の役に立つことをしたいという生徒が75%であった。しかし、「小長井には大きな店がない」「交通の便が良くない」「遊ぶところがない」などの理由で、将来小長井に住みたいという生徒は39%にとどまった。

3 研究主題設定の理由

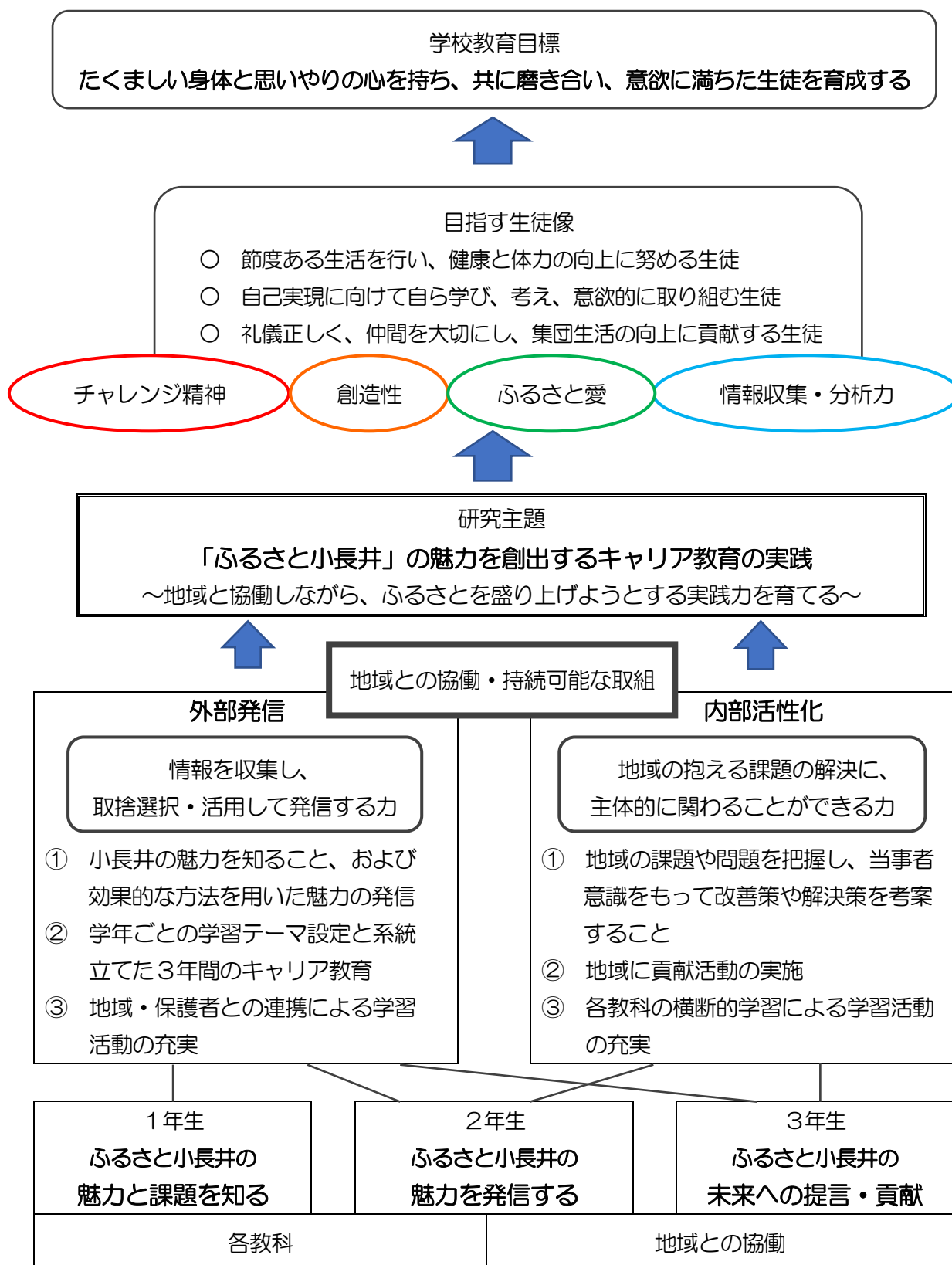
自ら学び、主体的に行動できる生徒を育成し、ふるさと小長井を盛り上げていく実践力を養うために、「地域との協働」「持続可能な取組」を念頭に置きながら、「外部発信」と「内部活性化」という2つの視点を持ってキャリア教育の研究に取り組むこととした。「外部発信」・・・外部へ発信する力を育て、ふるさと小長井にある魅力を県内外に発信することで、小長井の魅力をより多くの人に知ってもらう。

「内部活性化」・・・地域の課題解決に取り組んでいくことで、地域に住んでいる人々の気持ちを明るくし、ふるさとを内側から元気づけていく。

また、生徒に身に付けさせたい力を「情報を収集し、取捨選択・活用して発信する力」と「地域の抱える課題の解決に、主体的に関わることができる力」と設定した。

2つの視点を持ってふるさと小長井を盛り上げるための学習を主体的に行わせることを通して、「チャレンジ精神」や「創造性」を養うことができると考えた。それと同時に、情報を収集し活用する力も身に付いていくことが期待される。各教科の学習において、「根拠を明確にして自分の考えを伝えること」が本校生徒の課題であるが、仲間や地域の方々とのやりとりの中でその力を育むことができるとも考えた。

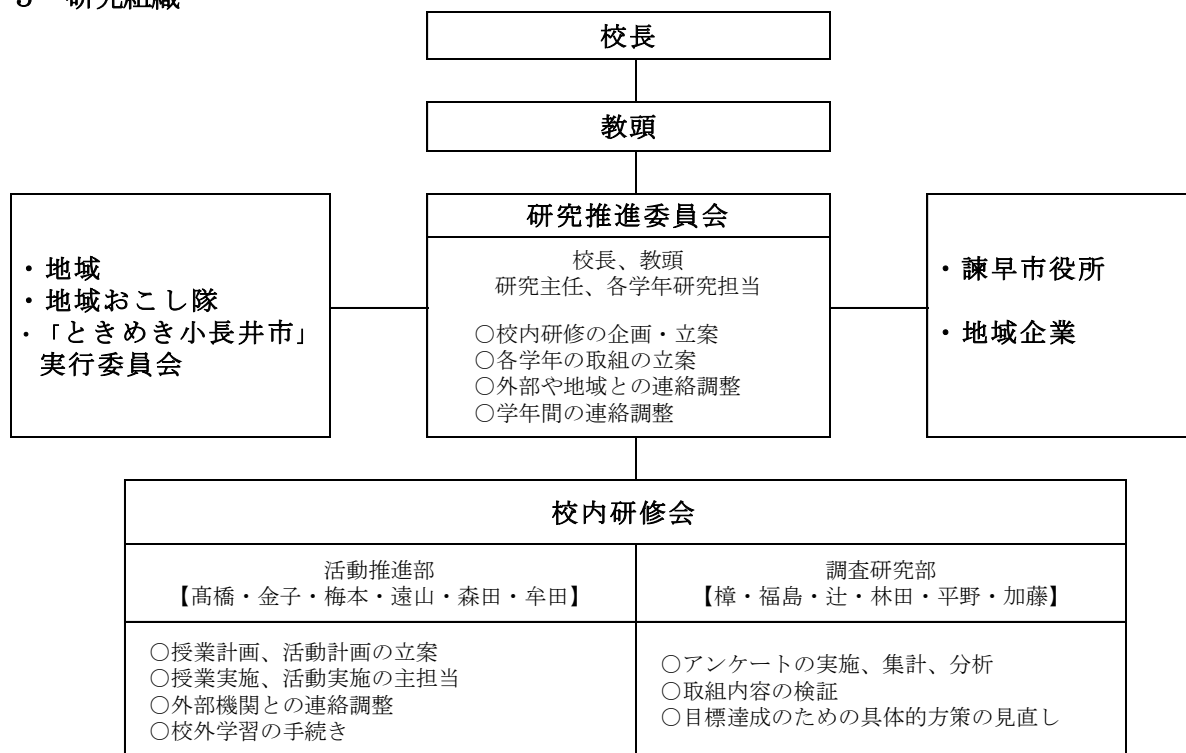
4 研究構想図



【研究仮説】

生徒に地域の現状や課題を把握させ、その解決の方法を主体的に考えさせ、地域と協働する活動を仕組むことで、ふるさとに愛着をもち、ふるさとを盛り上げていく実践力を養うことができると考えられる。

5 研究組織



「ときめき小長井市」実行委員会メンバー

氏 名	所 属
藤川 秀昭 様	ふたばこども園園長・浄真寺住職
森 和明 様	諫早市議会議員
富田 和彰 様	(元) 諫早市小長井振興公社理事長
森 光徳 様	諫早市小長井振興公社理事長
高平未知留 様	諫早湾漁業協同組合
久保 明子 様	諫早湾漁業協同組合
植木 勇次 様	植木水産、こながい町おこし隊
木下しのぶ 様	清和こども園園長
西崎 豊 様	WEB デザイナー、こながい町おこし隊
藤原 洋和 様	藤原果樹園、こながい町おこし隊
中島 雄二 様	諫早市役所小長井支所長
小峰 裕治	小長井中学校 校長
中島 融	小長井中学校 教頭
梅本美和子	小長井中学校 研究主任
高橋 芳枝	小長井中学校 研究推進委員 (第3学年)
辻 伴幸	小長井中学校 研究推進委員 (第2学年)
森田 謙人	小長井中学校 研究推進委員 (第1学年)
3年生	「ときめき小長井市」企画総務部 2名
	「ときめき小長井市」渉外部 2名
	「ときめき小長井市」広報部 2名

6 令和3年度の取組

実施月	学習活動	実施学年	備考
6月	事前アンケートの実施	全学年	
	学習のオリエンテーション ※第1回指導主事派遣	全学年	
7月	山茶花高原&ハーブ園での清掃作業 講話「山茶花高原の成り立ちと小長井の未来」 (講師 諫早市小長井振興公社理事長 富田和彰氏) 小長井を盛り上げる方策についての質疑応答	3年生	
9月	インタビュー学習 小長井町内の9事業所を班ごとに訪問 2名の外部講師来校	1年生 2年生 3年生	3年生は一部のみの参加
	「小長井きらり新聞」制作 ～11月	1年生	
	「小長井MAP」「小長井PR動画」制作 ～12月	2年生	
10月	講話「小長井の昔、今、そして未来」 (講師 浄真寺住職 藤川秀昭氏)	全学年	
	「森和明さんを囲む会」 (ゲストティーチャー 諫早市議会議員 森和明氏) 小長井を盛り上げる方策、中学生にできること、 議会での仕事などについて	3年生	
	3学年学習発表会 『ふるさと小長井』の未来への提言・貢献 ※第2回指導主事派遣	3年生	体育館
12月	修学旅行での小長井PR活動 (長崎市内でのPRと小長井MAPの配布)	2年生	
	事後アンケート、1年間の学習のふりかえり	全学年	
1月	カキ養殖に関する体験学習(植木水産と漁協)	1年生	※中止
2月	1学年学習発表会 「小長井きらり新聞発表会」 ～小長井の魅力を発表しよう～	1年生	学年ごと教室で開催 保護者参観はなし
	2学年学習発表会 「小長井MAPとPR動画のお披露目会」 ～小長井の魅力を発信しよう～	2年生	
	フルーツバス停周辺花畑作業	3年生	※記念植樹に変更
	来年度の取組についてのアンケート	全学年	
3月	フルーツバス停清掃(平原、小深井、長戸、支所前)	1年生	
	諫早市小長井PT(プロジェクトチーム)との意見交換会	1年生	

II 令和4年度の取組

1 1年生の取組

テーマ 「ふるさと小長井」の魅力と課題を知る

3年間のふるさと小長井を盛り上げるための学習を系統立てて行うために、まずは小長井の魅力や課題を知ることが必要であると考えた。

そこで、4年前から取り組んでいる「きらり新聞」の作成を行うこととした。小長井にある事業所や小長井で活躍している方々にインタビューを行い、小長井の魅力や課題を知ることにした。また、「こながいの昔ばなし」を劇にして演じることで、これまで以上に小長井の魅力に気づくことができると考えた。

(1) 学習計画

【33時間】

月	時数	学習内容	学習形態
5	1	「ふるさと小長井を盛り上げよう！」オリエンテーション ・学習のめあての理解 ・アンケート調査 ・ブレインストーミング ・コース分け希望調査	全体
6	2	小長井の人きらり ・インタビュー内容について	班 劇「こながいの昔ばなし」 ・劇の練習、背景、道具制作音響の準備
7	2	話し合い ・アポイントメント取り	
8	1	・インタビュー活動	
9	3	・「きらり新聞」の作成	
	4	活動報告・発表の準備	班 全体
10	12	活動報告・発表の準備 活動報告（学習発表会）	全体
12	1	「ふるさと小長井を盛り上げよう」のふりかえり	全体

(2) 活動内容

① 小長井の人きらり

3年間を通して行う「ふるさと小長井を盛り上げよう！」の学習におけるコース決定のために、希望調査を行った。コースは以下の6つである。

- 文化・歴史 ○福祉 ○人・生活
- 観光 ○産業 ○自然・環境

生徒からのアンケートをもとに、小長井にある事業所や活躍している方々（以下「きらり人」）にインタビューを行い、その内容をまとめ「きらり新聞」を作成した。夏休みにインタビュー活動を行う予定であったが、大雨洪水警報の発令により、インタビュー活動ができなかった班があった。その班は、事業所やきらり人に質問内容をFAXし回答をいただいた。



アイアイランドにて



赤米についての
インタビューの様子



中尾建設専務との
インタビューの様子

生徒の感想

<文化・歴史コース>

・アイアイランド

インタビューに行き、営業を始めたきっかけや名前の由来などを聞くことができ良かった。これからアイアイランドや小長井のことを宣伝していかなければいけないと思った。

・こながいの昔ばなし

昔話を作った土井さんの想いを知ることができて良かった。昔話や小長井のことについてもっと知りたいと思ったし、たくさんの人に伝えていかなければいけないと思った。



<福祉コース>

・ふたば子ども園

就職で小長井から出る人が多いため、若い人が減っていることや、より多くの人に小長井を知ってもらうことが課題だと園長先生がおっしゃっていた。小長井の行事などに積極的に参加したいと思う。

・山崎病院

コロナ期間で大変なことや小長井で開業した理由などを知ることができた。若い世代が少なく、子どもの数が減少していることが課題なので、「互助」「共助」の精神や、優しい人が多いという小長井の魅力をたくさんの人に広めていきたい。

<人・生活コース>

・バレーボール部外部指導者

バレーボールに対する思いや、選手への期待を知ることができた。「少子化で部員も少なくなっているが、小長井を盛り上げたい」という言葉が心に残っていて、私たちも小長井に貢献していきたいと思った。

・コンビニエンスストアひでしま

110年続いており、年間約9万人の人が利用している店。地域の人からよく知られているので、小長井のような小さい地域にはとても大切だと思った。



<観光コース>

- ・フルーツバス停（小長井支所）

フルーツバス停が、長崎県の玄関口として県内を訪れる人を和ませるために作られたことを知った。また、小長井は交通の便が悪いことや少子高齢化、過疎化が進んでいることも知った。これから、小長井を知らない人たちに小長井を知ってもらうような活動をしていきたいと思った。

- ・BlackBox 長崎(サバイバルゲームフィールド)

インタビューに行って小長井のことを知ることができた。小長井でサバイバルゲームを始めたきっかけが、職場（小長井）の近所の方の勧めだということを知って驚いた。最近サバイバルゲームが流行っているので、たくさんの人が小長井に来るきっかけになって良いと思う。

<産業コース>

- ・植木水産

インタビュー活動を通して、私たちが知らなかった小長井の魅力や課題について知ることができた。小長井に住んでいる私たちが小長井を活性化して、交流人口を増やしていかなければならないと思った。

- ・中尾建設

美味しい牡蠣やあさり、インスタ映えするものがあるだけでなく、中尾さんのように小長井に貢献しようとしている人がいることが小長井の魅力だと思った。小長井の魅力をもっと引き出していきたいと思った。

<自然・環境コース>

- ・赤米

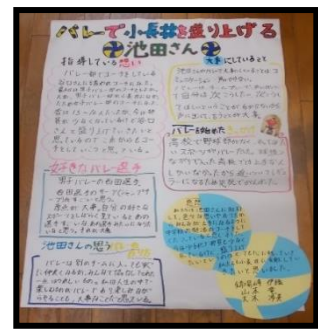
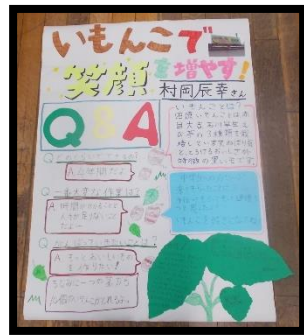
学習を通して、赤米の良さを知った。後継者がいないという悩みを解決するためには、より多くの人に赤米を知ってもらうことが大切だと思った。

- ・田原いもんこ

パンフレットを使って、詳しく説明してもらったのでわかりやすかった。後継者がいないから若い世代の人が手伝いに行くべきだと思った。



きらり新聞作成中の様子



② 「こながいの昔ばなし」の劇

平成元年に小長井町青年団女子部によって製作された絵本「こながいの昔ばなし」に収録されている「重太夫と天狗」を劇にして取り組んだ。4つのコースに分かれて準備を行い、学習発表会で発表した。

<背景画・小道具制作>

絵本の背景を画用紙に水彩絵の具で模写し、データとして取り込んだ。また、笠、刀、火縄銃などの小道具の作成にも取り組んだ。発表当日は、場面に合わせて背景を切り替える仕事や音響を担当した。



<大道具>

劇の中に出てくる、ミミズ・蛙・蛇・猪の被り物を中心に制作した。客席の遠くからでも登場するキャラクターがわかるように、大きく作ることを意識して製作に取り組んだ。発表当日は、黒子として道具の設置や片付け等を担当した。



<ナレーター>

昔ばなしの雰囲気を出すように語る速さやイントネーションを工夫し、役者の動きをきわだたせるナレーションを行った。

<役者>

台本をもとに台詞を覚え、自分たちなりにジェスチャーをつけて練習に取り組んだ。その後は、声やジェスチャーの大きさ、演者同士の掛け合い、方言、制作した大道具の見せ方などを意識して演技を行った。



(3) 活動をふりかえって (生徒感想より ○成果 ●課題)

- 小長井のことを紹介したり、小長井のことについて考えたりするようになった。
- 小長井のためになるような活動がしたいという気持ちが強くなった。
- 小長井には良いところ、すごいところ、誇りに思えるところがたくさんあった。知らなかったことを知る喜びを感じただけでなく、小長井を誇りに思い、大切にしていかなければいけないと考えようになった。
- 小長井で働いている人たちの想いを知ることができた。しかし、後継者がいないため想いや小長井の魅力を次の世代につなげることが難しい。

2 2年生の取組

テーマ 「ふるさと小長井」の魅力を発信する

1年時のインタビュー学習「小長井きりり」を通して知った小長井の魅力や、日頃から感じている小長井の良さを、県内外を問わず発信していき、小長井を盛り上げていくことをねらいとした。

昨年度末に生徒にアンケートを実施し、小長井を盛り上げる取組として令和4年度にどんなことをしたいか意向をたずねたところ「フルーツバス停グッズを考案して販売したい」「CMや動画を披露したい」「SNSを使ってイベントをしたい」などがあげられた。

また、職員にもアンケートを実施し、令和3年度の取組の中で継続したほうが良いと思われるものとして「小長井MAPを作成し、それを使ってPRする活動」「PR動画やCMの制作」「インスタグラム」などがあげられた。

(1) 学習計画

【37時間】

月	時数	学習内容	学習形態
5	1	「ふるさと小長井を盛り上げよう」のオリエンテーション ・学習のめあての理解 ・班分け希望調査	全体
	2	・班ごとの目標設定 ・各班のテーマに沿った企画立案	班
6～8	・班ごとの企画を実行		
9	・班活動のまとめ ・中間ふりかえり ・活動報告の準備		
10	・活動報告（学習発表会）		
11	3	・修学旅行で小長井をPRするための準備	班
12	1	・修学旅行での小長井PR	班
	1	・「ふるさと小長井を盛り上げよう」のふりかえり	全体

(2) 活動内容

小長井中インスタグラム
2次元コード



① インスタ広報班

(ア) インスタグラム

長崎県公立中学校初の公認インスタグラム。本校やふるさと小長井のよさを写真や動画を通じて発信することが目的。時代に合わせた発信ができないかと、昨年度から計画を立て本年度実施した。より多くの人に見てもらうために、2次元コードを作成して



インスタグラムの写真

宣伝している。現在フォロワーは90名で、10,000人のフォローを目指している。

今後、他の班や他学年とコラボしながら写真および動画を更新していく。写真を撮りに行く手段と時間の確保が課題である。

(イ) 諫早駅の掲示物制作

諫早市地域政策部移住定住推進課から提案があり、諫早駅のコンコースに設置された掲示板で小長井をPRした。小長井の魅力を写真と言葉、ポスターなどでPRしている。多くの人の目を引くためにはどんな書体がいいか、配置はどうか、大きさはどうかなどを考えて設置した。



諫早駅掲示板で小長井をPR

② CM制作班

小長井の魅力を各地にアピールすべくCMを制作。名所や魅力ごとに15秒～30秒のCMを生徒主体で企画を立て撮影した。

生徒たちには、発信者側になることで小長井の魅力を再発見してもらいたいと考えている。BGMをつける場合の著作権の問題や伝わりやすい表現方法、計画や工夫の重要性などについて、実践を通して学習することができた。

課題として、撮影場所への移動手段や時間の確保が挙げられる。また、今後、ケーブルテレビや市役所の大型モニターなど、多くの人の目にとまる場で放映できるように外部と交渉していくことを検討している。



CM制作についての話し合い



平原バス停でのCM撮影

③ MAP班

前年度に作成した小長井MAPが好評を得ていたため、新たなMAPを作成するのではなく、追加修正を行い、改訂版を作成した。リピーターを増やすためにできることは何かと考え、子育て世代や学生向け、歴史好きな方向けなどのニーズに合った観光プランを考え、MAPに掲載した。

今後、小長井をPRするリーフレットも制作し、改訂版の小長井マップとともに12月の修学旅行先で配布する予定である。



小長井MAP改訂版



MAPについて話し合い



MAP制作中

④ オリジナルグッズ班

(ア) エコバックの企画と販売

フルーツバス停をモチーフにした小長井のオリジナルグッズを作り、商品化したいと考えた。いくつかの候補の中からエコバックを作ることを決め、メンバーそれぞれがそのデザイン（プリントの図柄）を考え、本校のイベント実行委員数名の方も含めてプレゼンテーションを行い、デザインを決定した。

実際に自分たちで商品を企画販売する取組を進めていくと、予想外の大変さや難しさが見えてきた。メンバーで話し合いを重ね、「大量販売はせず、無駄を生み出さない」「利益は求めない」「本当に欲しい人を買ってもらおう」を理念として予約販売することにし、チラシを作成した。

今回決定したエコバックデザインの1つは、JR九州「ふたつ星4047」の小長井駅での歓迎イベントで配布されるお土産入れのデザインとして採用してもらった。

(イ) ランプシェード制作

本校の取組に関心をもってくださっている地域の方との話の中で、フルーツバス停をモチーフにしたランプシェードを作ってみようということになり、地域の方を講師に招いてランプシェードを制作した。



バックのデザインをプレゼン



エコバックデザイン案1



エコバックデザイン案2

(3) 活動をふりかえって（生徒感想より 成果○ 課題●）

- 学習を通して、以前よりも小長井が好きになっていた。
- 積極的に自分の意見を出すようになった。
- 作業を人任せにしないようになった。
- 仲間と協力して1つのものを作り上げることは楽しいと思った。
- 大人とのかかわりが増えて、学ぶことが一気に増えた。
- 大人は小長井のことを思ってくれていて、自分もそういう風にならないといけないということを学んだ。
- 小長井のことをPRしたり紹介したりすることができるようになった。
- 小長井を盛り上げるためにいろんな活動をしたいと思うようになった。また、どうすれば小長井に人がたくさん来てくれるか真剣に考えることができた。
- エコバック制作を通して、物事は思い通りにはならないということを学んだ。
- CM撮影がこんなに大変だとは思わなかった。
- 写真をアップする順番や構成、コメントを考えることが大変だった。人目を引くような写真をアップして、フォロワーを伸ばしていくのは難しいと感じた。
- 見やすく手に取って見てもらえるようなMAPを作るための工夫が必要である。

3 3年生の取組

テーマ **「ふるさと小長井の未来への提言・貢献」**

2年時に行った小長井PRの取組の成果を生かしつつ、地域貢献および小長井の未来のために意見を出していきたいと考えた。

地域に貢献できる活動として、イベント（物産展）を行い、小長井を盛り上げることと、名所であるフルーツバス停の清掃活動をすることにした。

また、小長井の未来への提言として、パネルディスカッションで小長井を活性化させるための提言をすることとした。

(1) 学習計画

【38時間】

月	時数	学習内容	学習形態
6	1	「ふるさと小長井を盛り上げよう」のオリエンテーション ・昨年度の振り返り ・今年度の学習のめあての理解 ・イベント開催組織委員会希望調査	全体
	2	イベント開催に向けて、各部署での企画や計画を立てる。	各部署
7	5	部署ごとに企画や計画を実行する。	各部署
8	6	部署ごとに企画や計画を実行する。 こながいまつりへの協力（延期）	各部署 有志
9	8	イベント開催に向けての準備 パネルディスカッションに向けて ・小長井の課題を知り、その改善策や解決策を考える。 ・パネルディスカッション練習	各部署 全体
10	13	イベント開催に向けての準備 パネルディスカッションリハーサル イベント開催・学習発表会・イベント開催の振り返り	各部署 全体
2	2	フルーツバス停清掃	全体
	1	「ふるさと小長井を盛り上げよう」のふりかえり	全体

(2) 活動内容

① イベント開催

「イベント（物産展）を行い、小長井を盛り上げよう！！」

「より多くの人に小長井の魅力や特産品を知ってもらおう」「地域の方と協働で小長井を盛り上げる」ことを目的として、小長井のために今できることを実践し、小長井の未来につながる活動にするためにイベント（物産展）を開催する。

イベント（物産展）を開催するにあたり3部署を立ち上げ、各部署代表2名は地域の方も含めた実行委員会に参加した。

【企画総務部】・・・イベントの企画（全体的な計画・配置図・司会進行など）、各部の状況把握、学習発表会の原稿作成、外部との連携

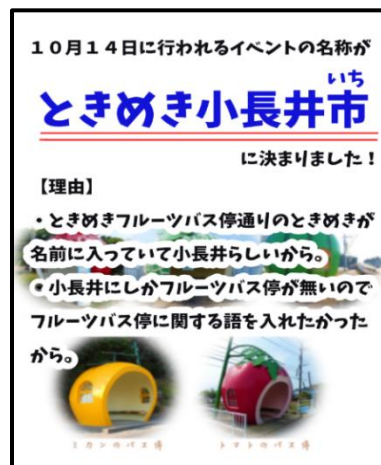
【渉外部】・・・出店依頼と販売品の交渉、販売品についての調査、販売用POPやポスター作成

【広報部】・・・イベントの宣伝、ポスターおよびチラシ作成（地域や保護者配布用）、看板製作、当日の案内

(ア) 各部の取組状況

<企画総務部（5名）>

- ・10月14日に開催するイベントの名称を3つ考え、3年生にアンケートを実施した。その結果、「ときめき小長井市（こながいいち）」と決定し、職員、実行委員会に報告した。生徒向けにはプリントを作成し各学級に掲示した。
- ・「ときめき小長井市」のイメージソングを考えた。出来上がった曲を、音楽科担当教諭や実行委員会の方々に聞いてもらい、アドバイスを受け、手直しをして完成させた。



イベント名称決定のチラシ



イメージソングの楽譜の一部

- ・「ときめき小長井市」の販売ブースを計画し、ブース配置図を制作して出店者へ配布した。また、開催に向けてタイムテーブルや進行手順などを考え、最終準備を行った。



ブースの広さを計測

<渉外部（22名）>

- ・小長井の特産品にはどのようなものがあるかを生徒たちで考え、実際に販売できそうなものを検討した。各事業所等へ出店を依頼したところ、以下の販売協力を得た。

- ・諫早湾漁協（海産物加工品）
- ・植木水産（海産物加工品）
- ・山茶花高原ピクニックパーク（フルーツバス停グッズ）
- ・Berry Berry Js（ブルーベリージャム、小物）
- ・美泉（マスク）
- ・藤原果樹園（小長井みかん）
- ・赤米
- ・田原いもんこ

- ・「ときめき小長井市」で商品のPRを行うにあたり、生徒がどのような活動ができるのかを8つの班に分かれて検討会を行った。各班の意見を集約して、「ポスター」「POP」「キャッチフレーズ」「シール（購入者へのサービス）」などの制作を行うことになった。
- ・販売する商品について知るために、商品のアピールポイント、生産者の努力商品と地域とのつながり、商品の活用方法などについて、製造者（生産者）と直接会って情報収集を行った。
- ・収集した情報を基にポスターなどの制作を行い、必要に応じて完成したものについて事業所の方へ意見を伺い、最終的な販売方法について検討を行った。



事業所との打ち合わせ

<広報部（10名）>

- ・「ときめき小長井市」を地域の方に知ってもらうための宣伝方法について、生徒で話し合いを行った。ラジオ、地域雑誌への掲載、チラシや看板などの様々な意見が出たが、検討した結果、立て看板、チラシ、ポスターの3点を制作した。渉外部と情報を共有し、出店してくださる各事業所の特産品をデザインに取り入れた。



看板



チラシ（表紙）



ポスター

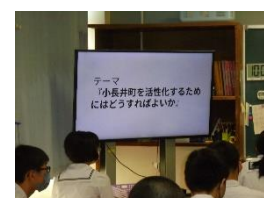
② パネルディスカッション

「小長井を活性化させるための提言をしよう！！」

小長井に住んでいる人々が感じている課題や問題を知り、その改善策や解決策を考える。考えたことをもとに、「小長井の活性化と未来」をテーマにパネルディスカッションを行う。（地域の活性化のために今できることは何か、これから自分は何ができるのかを考える。）

学年全体の取組としては、まず一人一人がテーマに関して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換を行うことから始めた。

代表は研究発表会で地域の方（4名程度）とパネルディスカッションを行う。



③ 地域貢献活動

「地域に貢献できることを見つけよう！！」

「小長井に住んでいる人々を明るくし、元気づけたい」「より多くの人に小長井の魅力を知ってもらいたい」「地域の方と共同で小長井を盛り上げたい」「地域のために貢献したい」ことを目的として、小長井のために今できることを実践する。

- ・フルーツバス停清掃や花畑作業などを、小長井プロジェクトの方々や老人会、小長井振興公社の協力を得ながら行う。
- ・福祉施設むつみの家との交流は、例年1年生時に行っていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、計画には入れていたが実施できなかった。
- ・こながいまつりへの協力として、全校生徒が夏休み中にポスターを制作し、実行委員会に渡した。当日の司会者や有志によるソーラン節など計画したが、延期となった。この場で「ときめき小長井市」のPRも行う予定にしていた。フルーツバス停等の清掃は2月頃に行う予定である。
- ・「ときめき小長井市」実行委員会のメンバーでもある諫早湾漁協の方から、漁協直売店トイレの壁面制作依頼があり、3年生にイラストを募集した。応募された30点ほどの作品の中から10点に絞り、現在、漁協の方と最終選考を行っているところである。今年度中の完成を目指したい。また、諫早市よりスクールバスの側面のイラスト依頼もあり、現在集めているイラストの中から、候補を選ぶ予定である。



壁面画の候補作品（一部）

(3) 活動をふりかえって（生徒感想より 成果○ 課題●）

- 小長井には他の町にはない魅力がたくさんあることが分かり、小長井の良さを以前より言えるようになった。良いところをどんどん発信していきたい。
- 以前よりも小長井のことが好きになった。
- 地域の方たちは小長井を盛り上げるためによく考えたり、話し合ったりするなど小長井のために頑張っていることが分かった。
- 同じ部署の人と協力し、地域の方に協力してもらい、小長井のために何ができるかを考え、自分たちで企画し、実行することができた。
- 小長井のことについて目を向け、良さを見つけることができ、魅力を伝えるために経験したことがないことにもチャレンジすることができた。
- 人口が増えるような取組をしていくことが大切だと思った。
- 小長井を活性化するために、もっといろいろな工夫ができるのではないかと考えるようになった。

Ⅲ アンケートの集計結果と分析

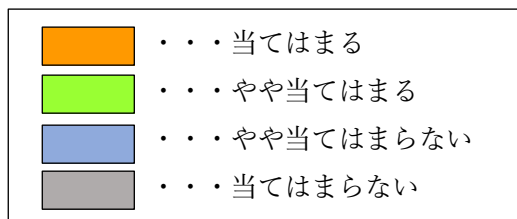
- 1 現2、3年生を対象として次の（ア）～（オ）の項目について追跡実態調査を行い、その変容を分析した。

事前アンケート R3. 6月実施

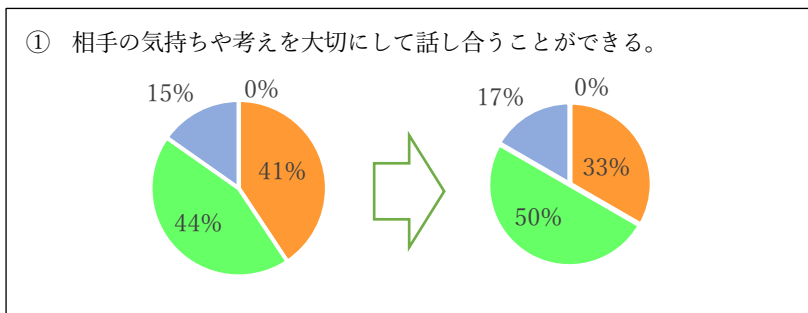
途中アンケート R4. 7月実施

※左のグラフが事前アンケート

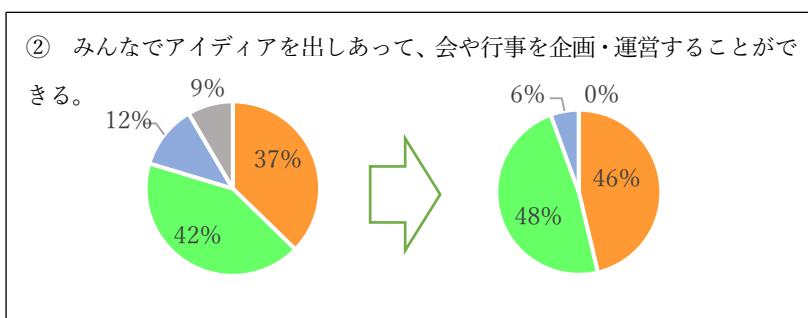
右のグラフが途中アンケート



（ア）「人間関係形成・社会形成能力」の視点からの項目①・②

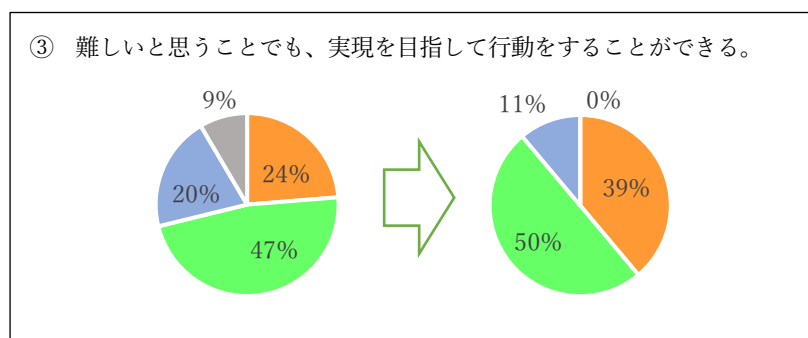


① グループに分かれて活動をする中で、相手の意見を尊重することの重要性を感じながらも、その難しさを実感する場面が多くあった。その都度、話し合いを深め、よりよいものを創ろうと努力していた。

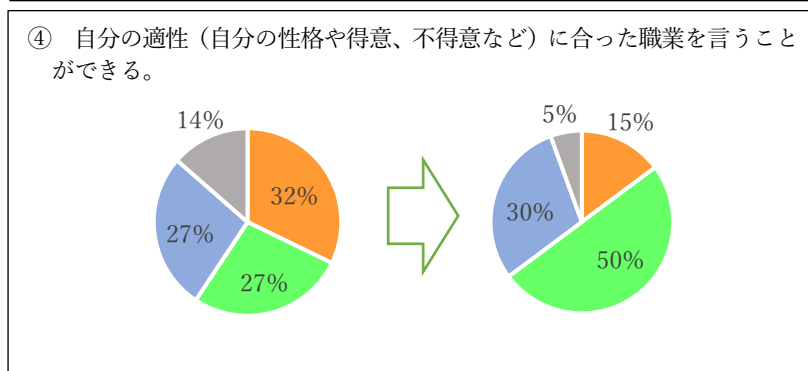


② 企画運営に関しては、さまざまな視点で考え、豊かな発想力を形に変えて、それを実践することの楽しさや面白さ、難しさを感じることができた。

（イ）「自己理解・自己管理能力」の視点からの項目③・④

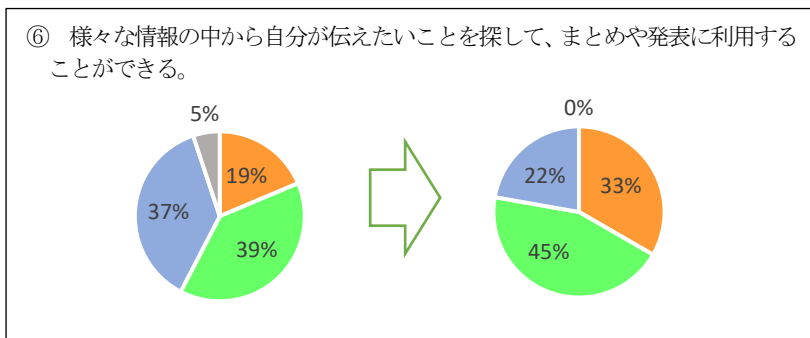
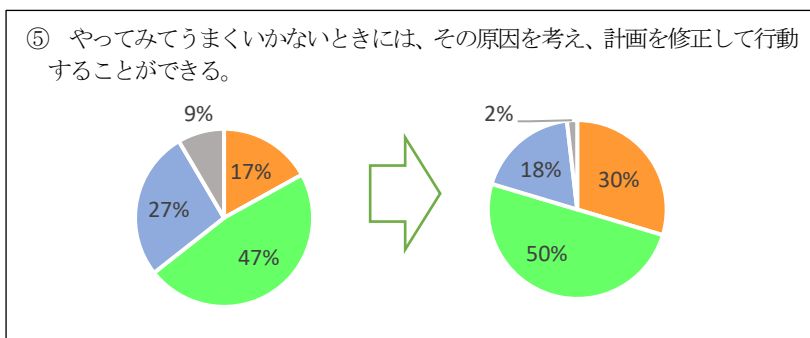


③ 活動の中で、できることとできないことを把握する能力が高くなった。できないことも形を変え、自分達がやろうとすることを少しでも反映させることができるようになった。



④ 自分の適性については、地域の方々とのふれあいの中で、自分が想像していた仕事と違う面などに気づいたことで、「当てはまる」の項目数値は下がったが、おおむね自分に合った職業を言うことができる生徒は、60%以上いる。

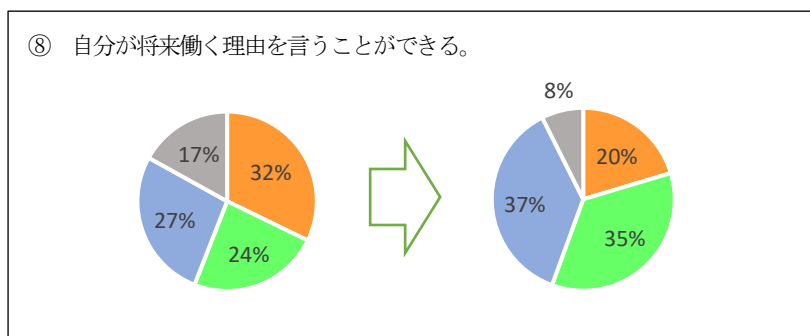
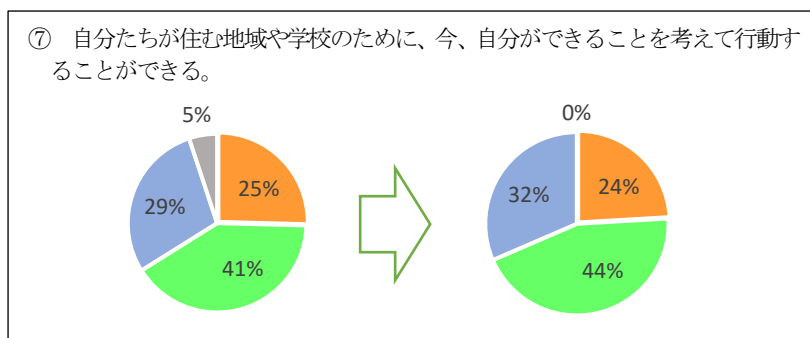
(ウ) 「課題対応能力」の視点からの項目⑤・⑥



⑤ 活動を続けていると必ず課題が出てくるため、その都度班員とその原因を話し合い、修正して取り組んでいた。複数の課題を克服することができないこともあったが、そのことを前向きに捉え、方向性を変えて活動した。

⑥ 各学年単位で定期的にまとめ活動や発表会を行ったが、何を発表するかを明確にし、班員と協力しながら意欲的に発表内容を考えることができた。

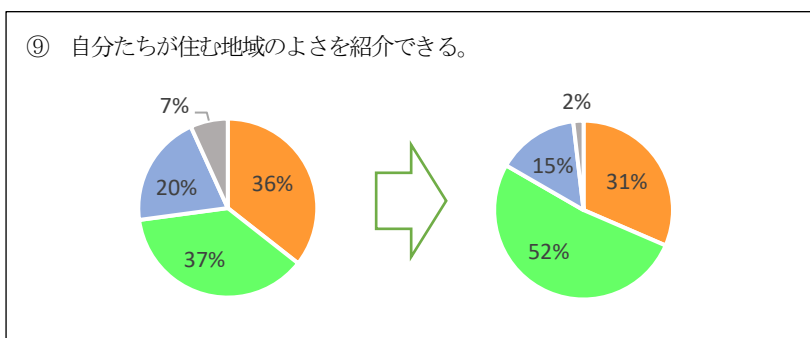
(エ) 「キャリアプランニング能力」の視点からの項目⑦・⑧



⑦ 数値にあまり変化はないが、地域のために自分ができていることは何かを考える機会が増えた。その中で、実現することが難しい内容があることを知り、自分一人の力ではなく、多くの人が必要であることを学んだ。

⑧ 将来働く理由については、漠然とした理由しか言えなかったが、実際に地域の方々の働く姿に触れ、真剣に考えることができるようになった。

(オ) 「ふるさとの理解・愛情」の視点からの項目⑨～⑫

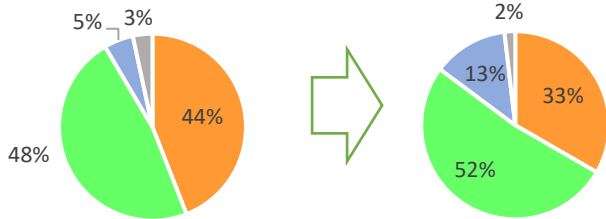


⑨ 自分達の住んでいる地域を調べることで、知らなかった地域のよさを再確認するとともに、どのようにしてこのよさを発信、紹介するかを考えるようになった。

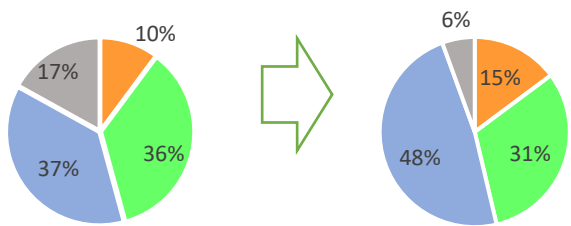
⑩ 将来大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う。



⑪ 小長井のことが好きである。



⑫ 将来、小長井に住みたいと思う。



⑩～⑫ 小長井のことが好きで、誇りに思う生徒は当初から多かったが、「将来、小長井に住みたい」という生徒は、少なかった。ここが本研究の鍵になっていると考え、少しでも小長井に住みたいと思えるような取組を中心に行ってきた。

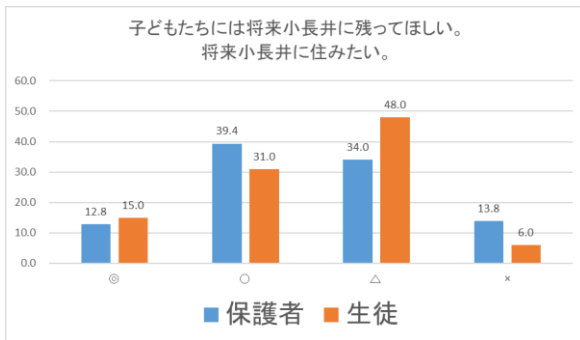
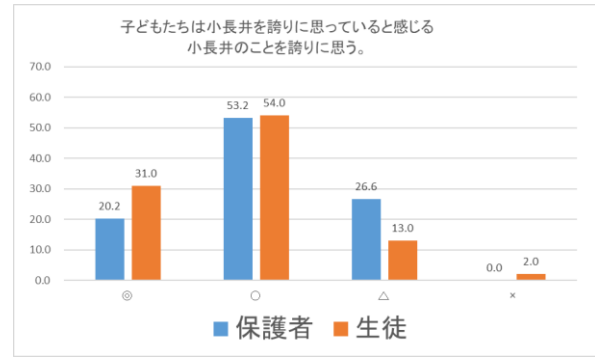
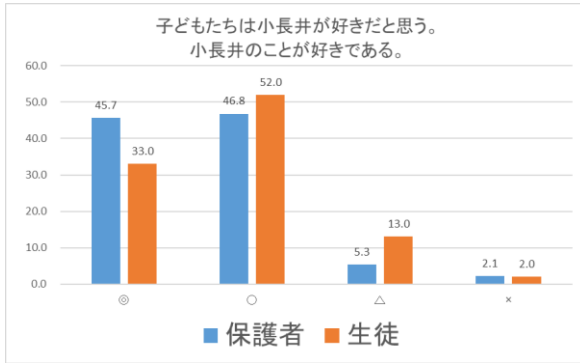
⑫は若干ではあるが、「当てはまる」の数値が増加し、「当てはまらない」の数値が減少したことは、小長井の将来を考えると喜ばしいと言える。

反面、50%以上が将来は小長井に住みたくないことを考えると、これまで以上に、地域と協同し、継続的・発展的な取組を行う必要がある。人口が増えれば活性化することもあるが、治安の問題や、子育ての問題、住宅の問題など、中学生だけで解決するには限界がある内容が多く、地域との連携は欠かせない。

2 「ときめき小長井市」実行委員（地域の方々）からの意見

- ・進学、就職と小長井地域から離れる生徒さんも多くなるかもしれないが、成人式や同窓会など地域での行事には極力参加してくれることを期待する。
- ・地域産業や地元の魅力を知ってもらい、家業の後継や町外移住の阻止を考えてほしい。
- ・今学校が行っているふるさとを盛り上げる取組を、一過性ではなく、継続してもらいたい。また、今年度から地域おこし協力隊が配置されたので、小長井を盛り上げるために協力してさらにいろいろなアイデアを引き出してもらいたい。
- ・古きことも大事にしてほしいが、新しい分野、ネット社会に対応したSNS等の活用を推進してほしい。
- ・積極的な提案をしてほしい。アイデアベースでいいので「こういうものがほしい」「あったらいいな」「作りたい」というものを、町や市、事業者に投げて一緒に形にしていきたい。
- ・中学生がふるさとのために一生懸命取り組んで進めている姿や意欲を、地域全体の人が知れるようにし、中学生以外の方もいろいろな面で支援や協働をしていければと思う。

3 保護者と生徒アンケートの比較



◎ 当てはまる ○ やや当てはまる
△ やや当てはまらない × 当てはまらない

小長井が「好き」「誇りに思う」という項目では、保護者、生徒ともに80%割から90%割と高い数値であり、ふるさと愛を感じることができた。「将来小長井に住みたい」という項目では、生徒より保護者の方が小長井に残ってほしいと考える傾向がやや高いが、「残ってほしい」とは考えていない保護者も一定数いることが分かった。

4 保護者からの意見

- ・小長井の良いところ、悪い（不便な）ところを考えて、良いところは伸ばし、悪いところは改善していくよう、中学生らしい案を出して、できることから実行してほしい。
- ・とりあえず今は小長井の良いところを知り、好きになって、これから高校、大学、社会へと進んだとき周りにいる友達などに自分の生まれ育った場所を自慢できるようになってほしい。
- ・高齢化が進んでいる町なので、地区の清掃活動などに進んで取り組んでくれたら助かる。
- ・地域行事に積極的に参加して、いろいろな世代の方々との交流をしてほしい。
- ・小長井町内の行事やイベントを企画し、主催者として参加できれば、伝統などが受け継がれていくのではないかと思う。
- ・中学生監修で小長井のグッズ（フルーツバス停、牡蠣、山茶花高原）など特徴を生かした物を作り、CMやホームページ、インスタグラムなどSNSを活用して宣伝するといいいのではないか。
- ・小長井の人口が減っているので、何とかして盛り上げようという話は、5年ほど前から上がっていたが、大人で話し合いを続けてもなかなか進展しなかった。中学生の新しい新鮮な意見を取り入れることで、未来が明るくなると思う。
- ・小長井には若者が働く場所がない。代わりに自然や食べ物が豊かなことが魅力。今の小長井の現状を把握して、何が必要であるかを考え、できることから行動してほしい。大人と協働して小長井を盛り上げていければいいと思う。

VI 研究の成果と課題

1 成果

(1) 地域と学校のつながり

地域のニーズを知るために、諫早市小長井支所や町内の事業所、小長井の町おこしに尽力されている方々を訪問した。その際に、本校の取組を紹介したことがきっかけとなり、小長井のために生徒ができることが具体化してきた。また、小長井地域活性化へ向けた諫早市の取組と相まったこともあり、地域との協働の場が増えた。特に、「ときめき小長井市」の開催に向けた実行委員会や渉外活動において、地域の方々と生徒が直接話したことで地域と学校とのつながりが深まった。

(2) 地域と協働できる取組かつ持続可能な取組

昨年度、今年度と様々な活動を試み、来年度以降も地域と協働で取り組むことができるような取組を発掘できたことが大きな成果である。地域の方も、一過性でない持続可能な取組を望んでおられることが、アンケートの回答から分かった。

(3) 情報を収集し、活用して発信する力の育成

インタビュー内容のまとめを発表する、打ち合わせ等で得た情報や自分たちが調べたことをSNSやMAP、ポスターなどを使って発信するなどの取組を行ったことで、情報収集し、目的に応じて活用する力がついてきた。

(4) 主体的に課題解決に関わる力の育成

班活動において、話し合いの時間を確保し、自分の考えを述べる場を多く設定したり、一人一人の得意分野を生かした取組を行わせたことで、自分の役割を果たそうとする姿が見られるようになった。このことは、自ら課題意識を持ち、課題解決のために試行錯誤していくという主体的な態度の育成につながった。

2 課題

(1) 地域との連携

これまでのつながりや今回の取組を通してできたつながりを持ち続け、住みやすい小長井のまちづくりに中学生をより積極的に参加させること。

(2) 生徒の主体性をより高めていくこと

教師や地域の方によるサポート体制をより充実させ、生徒の主体性を高めることができるような活動を仕組むこと。そのために、活動内容を早めに設定し、手際よく進めていく必要がある。

また、この2年間の取組を精選し、教師が見通しや準備を十分に行うことが必要である。そうすることで、子どもたちに探究的な学習を行わせることができ、自ら課題を見つけその課題を解決していく力を伸ばしていけると考える。

(3) 時間の確保

生徒主体で活動するためには相当の時間がかかるため、時間の確保が課題である。また、小長井地区は公共交通手段が限られており、地域に出て活動する日時も制限を受けることがある。

おわりに

本日は御多用の中、本校の研究発表会へお越しいただき、誠にありがとうございました。令和3年度より、長崎県教育委員会および諫早市教育委員会の2年間の研究指定を受け、研究に取り組んでまいりました。

私は群馬県の出身です。縁があつて長崎県の教員になりましたが私は誇りをもって、群馬県出身ですと言えます。長崎県出身の生徒が自信をもって、「長崎県の諫早市出身です。」と言えるふるさとを誇りに思える教育が、今、必要とされています。自分のふるさとを誇りに思い、自分の住んでいる場所を大切に、発展させていく人材として中学生に「ふるさと教育」を推進するこの研究は大変重要な取組であると思います。

現在小長井町では、過疎化が進み、子どもの数も年々少なくなっています。長里小学校、遠竹小学校は多くの学年で複式学級となっており、小長井中学校の生徒数も年々減少しています。このような状況だからこそ、「ふるさと教育」が必要なのだと思います。

活動の中で様々な職種の方が小長井中学校の生徒のために協力していただきました。本で行われた「ときめき小長井市」も小長井の様々な方々の協力のお陰で開催することができました。会議を開催すれば、快く御出席いただき、中学生へ真剣にメッセージをくださいました。大人が小長井を盛り上げようと活動している姿を生徒に見せていただき、生徒も自分たちにも何かできることがあるのではないかと、模索しました。

昨年度研究発表が行われた、世知原中学校・小浜中学校の研究内容を参考にして、小長井中学校では何ができるのだろうかと職員全員で考えました。株式会社の形式ではなく、小長井地区の特色を生かすことのできるやり方はないだろうかと考え、「ときめき小長井市」という形で進めてまいりました。地域の方にも、実行委員として何度も会議に参加していただきました。会議で様々なアドバイスをいただきました。また、この2年間で何度も長崎県教育委員会及び諫早市教育委員会の皆さまには、丁寧な御助言・御指導をいただき本日を迎えることができました。2年間という短い期間ではありましたが、本研究に取り組むことにより、生徒・教職員共々ふるさとに対する誇りを持つことができたと自負しております。今後も継続して「ふるさと教育」に取り組むための土台をしっかりと築くことができたと感じております。

最後に、この研究を通して、地域の皆さまからの多大なる御協力と御支援のありがたさとともに、改めて地域とつながることの大切さを実感いたしました。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力いただくことをお願い申し上げ、お礼の言葉といたします。

令和4年10月14日

諫早市立小長井中学校
教頭 中 島 融

研究同人

令和3年度

校 長	小峰 裕治
教 頭	中島 融
教 諭	高橋 芳枝
	樟 智弘
	辻 伴幸
	塩田 香苗
	梅本美和子
	小谷絵里子
	福島久美子
	森田 謙人
	平野 和子
講 師	林田多恵子
	田中 健嗣
	笠原 佳奈
非常勤講師	田中 文弥
養護教諭	後田 麗未
養護助教諭	林田 素子
特別支援教育補助員	佐原 孝明
事務主幹	三浦 岳生
事務職員	木下 一実
学校用務員	山口 信義
学校用務員	野中 逸子
A L T	ブラウニング・ ヘイリー・アン
心の教室相談員	山寄 由美
スクールカウンセラー	松下 智子
学校図書館運営支援員	東 麻紀子
学校給食配膳員 P T A事務補助員	川野 尚代

令和4年度

校 長	小峰 裕治
教 頭	中島 融
教 諭	高橋 芳枝
	樟 智弘
	辻 伴幸
	梅本美和子
	小谷絵里子
	福島久美子
	森田 謙人
	金子 祐子
	平野 和子
講 師	林田多恵子
	遠山 勇気
	加藤 明莉
	垣内まどか
非常勤講師	田中 文弥
養護教諭	後田 麗未
養護助教諭	林田 素子
	牟田美恵子
特別支援教育補助員	佐原 孝明
事務主幹	三浦 岳生
事務職員	木下 一実
学校用務員	山口 信義
学校用務員	野中 逸子
A L T	ブラウニング・ ヘイリー・アン
心の教育相談員	山寄 由美
スクールカウンセラー	松下 智子
学校図書館運営支援員	東 麻紀子
学校給食配膳員 P T A事務補助員	川野 尚代

